



つやまかわら版 市教委



—津山市教育委員会だより— 平成29年3月〈第24号〉

教育委員の活動報告 真庭市へ行政視察

平成29年2月7日(火)、ICT機器を活用した授業について行政視察のため真庭市立米来小学校を訪問しました。真庭市は平成27年度から導入を始め、平成29年度に全小・中学校への整備が終わる予定です。



デジタル教科書を使用した授業を参観

米来小学校では、平成28年9月に導入され、デジタル教科書等を活用した授業を行っています。当日は、4、5年生の授業を参観した後、その活用状況をお聞きしました。デジタル教科書には、教科書本文や図の拡大ができる

だけでなく文章の朗読、動画やアニメーションなど、デジタルならではの効果的な機能があり、児童生徒の興味・関心を高め、わかりやすく説明することで、児童生徒の思考や理解を深めることができます。



ICT機器活用状況の説明を受ける教育委員

また、全てをICTに頼るのではなく、先生方が相違工夫や情報共有を行いながら、切磋琢磨して授業をされているとのことでした。

津山市では、来年度からデジタル教科書等を活用した授業研究や校務支援システムの導入など、学校ICT環境の年次的な整備を進めて行く予定です。今後もICTを活用した施策を進めていきたいと思えます。

次期学習指導要領を見据えた取組について 英語活動等

小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から新しい学習指導要領が全面実施となります。学習指導要領は教育課程の基準となるもので、これまで約10年ごとに改定されてきました。今回の改定の特徴としては、小学校中学年から外国語活動が始まり、高学年では英語が教科として位置づけられます。今後、朝の学習等で10分〜15分程度のアクティビティ(英語を使った学習活動等)



グループ学習をする児童たち

も各校で工夫して取り入れていくようになります。教育委員会としては、これらに伴って、先生をサポートする外国語指導助手(ALT)の配置時間を増やしていきます。中学校では、先生はオンライングリッシュユでの授業が原則となり、教える先生の英語力向上も重要な取組のひとつとなります。

また、アクティブラーニングに代表される、「主体的・対話的で深い学び」をめざした学びの質の改善等も挙げられています。先生が主導で説明して進めていく一斉指導タイプの授業から、これまでに以上に、授業中に、児童生徒同士がグループで調べたり、話し合ったり発表したりする等、児童生徒が主体となつて取り組む学習が求められます。

これから求められる変化の激しい社会の中で自らの課題を見つけ、多様な人々と協働しながら解決していく力の育成をめざしています。

学校給食の食物アレルギー対応を変更しました

津山市では、食物アレルギーのある児童生徒に安全で安心な学校給食が提供できるように、医師の診断後、「学校給食食物アレルギー除去食等意見書」及び「学校生活管理指導表」を提出いただき、卵類、牛乳・乳製品、小麦、大豆、えび、ピーナッツ・ごま・ナッツ類の6種類の食品を除いた除去食を提供しています。



平成27年3月に文部科学省から「学校給食における食物アレルギー対応指針」、平成28年3月に岡山県教育庁保健体育課から「岡山県学校給食等における食物アレルギー対応方針について」が示

されたことを受けて、津山市食物アレルギー対応検討会議を設置し、検討を重ねてきました。

その結果、学校給食で最優先されるべき「安全性」の確保をさらに図るため、「原因食物を提供するかしないかの二者択一の対応をする」としました。これにより、除去対応する原因食物の種類に変更はありませんが、加工の程度により除去か否かの区別は行いません。極微量でも症状の出る重篤な場合は、安全性確保のため給食全部を中止とし、弁当持参となります。

また、食物アレルギーについて理解を深め、適切な対応ができるよう作成していた「津山市版食物アレルギーの手引き(平成24年発行)」を改訂し、学校給食食物アレルギー除去食等申請書、意見書等の様式の変更も行いました。

関係者の方々には、学校給食における安全性最優先のため、主旨をご理解いただきご協力くださいますようよろしく願います。

保育園(所)・認定こども園・幼稚園合同研修『保健衛生に関する研修会』を開催しました

平成28年12月8日(木)、美作大学100周年記念館において、公立・私立保育園(所)・認定こども園・幼稚園の保育者・栄養士、美作大学・短期大学の学生ら約180人を対象に、保健衛生に関する研修会を開催しました。



乳幼児食物アレルギーについて理解を深めました

まず、「食物アレルギーについて」の演題で、美作大学食物学科 芳野健司氏にお話しいただきました。

芳野講師から、給食対応の基本的な考え方や給食対応の配慮や注意点等について

の理解を深めました。次に、「乳幼児食物アレルギー対応について」の演題で、河原内科・松尾小児科クリニック 松尾直光氏にお話し

いただきました。松尾医師から、事故発生の事例を通して、緊急時の対応や、食物アレルギーの症状・原因物質・診断・特殊型食物アレルギー等について学びを深め、食物アレルギーについての意見交換や症状を抑える自己注射薬・エピペンの使い方の演習を行いました。

津山市の食物アレルギー等対応給食の方針を基に、食物アレルギー等の共通理解や認識を深める研修となりました。

保育園(所)・認定こども園・幼稚園合同研修『特別支援教育に関する研修会』を開催しました

平成29年2月13日(月)津山東公民館において、公立・私立保育園(所)・認定こども園、幼稚園の保育者ら関係者約60人を対象に、特別支援教育に関する研修会を開催しました。

「保育室の気になるあの子

と周囲の子どもたち」と題して、ノートルダム清心女子大 学人間生活学部児童学科 青山新吾氏にお話しいただきました。



特別支援教育の大切さを学びました

青山先生から、保育者は「どうしてかな?」「どうしたのかな?」と、やさしい「どうして?」の特別支援教育の視点をもつことや子どもを細かく見ることの大切さ、集団の中で子どもたちが思いのほか育つこと等について、丁寧でわかりやすい講義を受けました。

参加者は二人組やグループに分かれエピソード語り等をして、気になる「あの子」と周囲の子どもたちへの細やかな指導・支援について学びを深めることができました。

**「リズムジャンプ」を
津山市全小学校で活用！**

リズムジャンプとは、美作大学の津田幸保准教授が考案したリズム運動です。

地面においた直線のラインを踏まないように、テンポの速い楽曲に合わせてダンスのようにステップを踏みます。リズム感や敏捷性を高め、楽しみながら運動能力や学習能力が高められると期待されていて、プロ野球の巨人軍が練習のアップメニューとして採用するなど各方面から注目される運動です。



リズムジャンプをする児童たち

現在、津山市の小中学校においても、一層の体力向上をめざして数校が取り組んでいます。

本年度からは市内全校での導入をめざして、教職員対象の実技研修会やリズムジャンプを活用した授業実践の紹介を行っています。

研修会に参加した教員からは「運動の苦手な子も夢中で取り組んでいた。本当に楽しそうで、授業中の気分を盛り上げたり、一人ひとりの運動能力に合わせて技を組み合わせていたり、いろいろと工夫ができる。」との感想がでていました。

今後、グループ活動が中心となることから子どもたちの良好な人間関係や仲間づくりの観点からもリズムジャンプの活用を広げていきたいと考えています。

図書館まつりを開催

津山市立図書館（本館）では1月21日（土）・22日（日）に第16回図書館まつりを開催しました。津山工業高校の生徒の皆さんや、ミュージカ



ミュージカル劇団きんちやい座さんによる熱演の様子

ル劇団きんちやい座の皆さんによるショーから始まって、「環境問題講演会&環境落語」では、内閣府地域活性化伝導師・加藤孝一氏の講演と春風亭柏枝師匠の落語で環境問題について面白く、わかりやすいお話しをしていただきました。ベトナム、マレーシア、カンボジアの自国の生活をお話しされたハローワールドやボランティアの方々による多彩な行事もありました。どの行事も、子どもから大人まで楽しんでいただき、笑顔の絶えない時間となりました。

図書館まつり全体ではのべ人数764人とたくさんの方々がにぎわいました。

沼遺跡の県指定について

沼遺跡は、昭和26（一九五二）年に発見され、翌昭和27年に最初の発掘調査が行われました。以後、数回の調査によって弥生時代のムラの遺跡であることが明らかになり、昭和30（一九五五）年には現地に堅穴式住居が復元され、当時としては画期的な一般市民が見学できる遺跡として公園整備されました。現在では、堅穴住居に加えて高床倉庫も復元され、歴史学習の場、憩いの場として多くの市民に親しまれています。



上空から見た沼遺跡

この沼遺跡が「ほぼ一つの集落全体を発掘調査したこと」によって、集落構造と、集落の規模及び空間利用の実態が把握され、弥生時代の集団の基礎単位を研究する嚆矢となった学史的に重要な遺跡である。」として、岡山県指定の史跡として指定されました。

**平成28年度
幼・小・中学校卒業式**

卒業おめでとうございます。

○卒業式・卒業生数
幼稚園

卒業式 3月16日（木）
園児数 二二六名

小学校
卒業式 3月17日（金）
児童数 九九二名

中学校
卒業式 3月14日（火）
生徒数 一、〇五四名



津山市・土庄町スポーツ少年団交流会を開催

2月4(土)5日(日)、香川県土庄町スポーツ少年団の団員24名が津山を訪れ、スキー、ニユースポーツで交流しました。

恩原高原スキー場で行われた初日のスキー交流では、これまでほとんど雪に触れたことのなかった土庄町の子どもたちでしたが、2m近く積もった雪と初めてのスキーに戸惑いながらも、少しずつ滑れるようになりました。



恩原高原スキー場でのスキー交流の様子

二日目は勤労者総合福祉センター体育館においてカローリングやストラックアウトなどのニユースポーツを楽しみ、指導者や父母らが焼きそば、豚汁、とろろ飯を



勤労者総合福祉センター体育館での様子

準備し、和気あいあいとした雰囲気の中、食事を楽しみました。

津山市と土庄町は友好都市縁組を結んでおり交互に訪問し交流を深めています。

津山高専・南小と連携した地域未来塾を開催

2月10日、津山高専の細谷准教授とその研究室の学生さんを講師に、南小学校6年生の児童25名が高瀬舟の帆や風車を作成して効率の良い風の利用法を学びました。また、文献に残っている資料などから昔の人がどのように高瀬舟を活用していたかを学びました。児童たちは思い思いの帆

をつくり、どうすれば早く進むかを自分で考えながら実験していました。さらに、風車を回してみる際には扇風機をもとに真似するなど、創意工夫に励んでいました。終了後のアンケートでは、先人の科学の知恵をさらに調べてみたいとなったなど、意欲の向上が見られました。地域に根差した知恵を知ることによって、地域に対する理解を深め、愛着を持つてもらうことができました。



作成した高瀬舟の帆で実験する児童

『成人を祝う会』を開催

平成29年1月8日(日)に津山文化センターにて第67回津山市成人を祝う会を開催しました。参加対象者は1,022人で、津山市にゆかりのある方も含めて809人が出席しました。

新成人を代表して津山工業高等専門学校5年生の近藤佑樹さんが謝辞を述べました。



6名の新成人が運営に携わりました

こどもの読書週間(4/23~5/12)講演会

4月23日(日)午後3時から津山市立図書館にて松岡信義先生(美作短期大学教授)による「絵本・親しみから生まれるもの」と題した講演会を開催します。読み聞かせに興味のある方はぜひご参加ください。*こどもの読書週間にあわせて読書手帳を配布します。



読書手帳

問 津山市立図書館
TEL 24・2919

帰ってきんちやい 学生登録募集

若者の定住を促進するため、奨学金の返還金を一部補助します。補助対象の候補者の登録を募集します。登録できるのは、高校3年生、大学、短大、高専、専修学校に在学中の方で、日本学生支援機構奨学金、津山市奨学金、磯野計記念奨学金を利用している方、または利用する予定のある方です。

問 生涯学習課
TEL 32・2009

発行 津山市教育委員会
(編集 学校教育部教育総務課)
〒708-8501
津山市山北520番地
TEL 0868-32-2112 (直通)
FAX 0868-32-2157
E-mail: kyouiku@city.tsuyama.lg.jp

教育委員会関係課： 教育総務課 学校施設課
学校教育課 保健給食課 生涯学習課
図書館 文化課 津山市史編さん室
スポーツ課 こども課 歴史まちづくり推進室

